

「四国地域の活断層の長期評価」(第一版)のポイント

(概要1)

地震調査研究推進本部 事務局

1. 活断層の長期評価

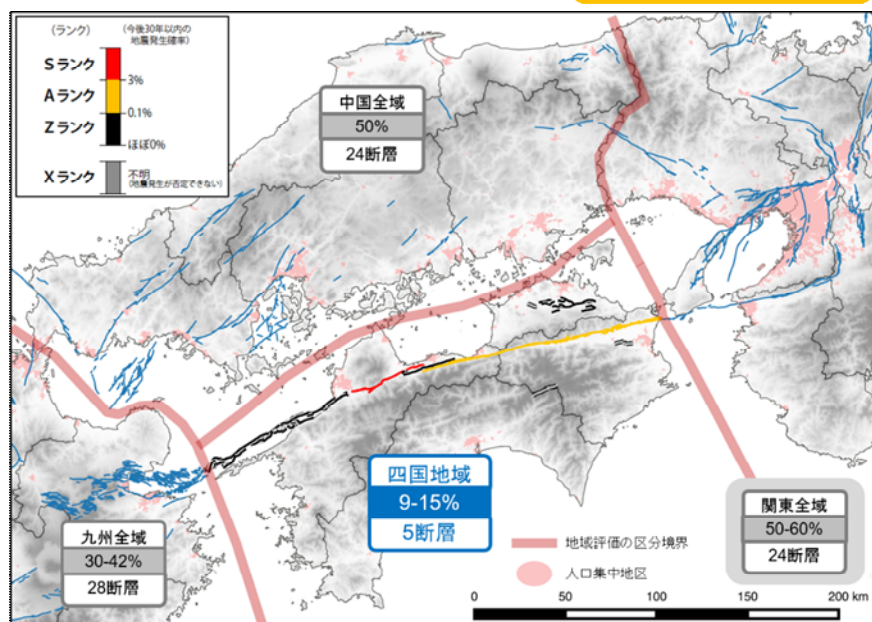
地震調査研究推進本部の下に設置されている地震調査委員会は、防災対策の基礎となる情報を提供するため、地震の規模、発生間隔等の長期予測(長期評価)を実施しています。

従来、陸域の主要な活断層帯(M7以上の地震を想定)を対象として個別に評価を行ってきましたが、M7未満の地震でも被害が生じること、地域によって活断層の特性に共通性があること等から、評価対象を広げ、地域単位で活断層を評価する「地域評価」を行うこととしています。

九州地域(平成25年)、関東地域(平成27年)、中国地域(平成28年)の地域評価に引き続き、このたび、四国地域を対象として地域評価を実施しました。

3. 評価対象とした活断層

5活断層



※青細線は評価で扱っていない活断層

2. これまでの活断層の評価と地域評価の主な違い

		従来の活断層評価	新たな地域評価
対象活断層	規模	M7.0以上	M6.8以上
	場所	陸域のみ	陸域・沿岸海域
	範囲	地表に現れている部分のみ	地下の延長部も推定して評価
評価方法		個別に活断層を評価	・個別に活断層を評価 ・地域単位で活断層を評価

個々の活断層の評価だけではなく、地域内で発生する活断層による地震の傾向が見えるようにする。

4. 四国地域の活断層で発生する地震の特徴・確率

四国地域は、被害を及ぼすような陸域の浅い地震活動は低調であり、該当すると考えられる史料も少ない。

一方で、国内最大の活断層である中央構造線断層帯が地域を横断し、その全長の半分を超える区間が、S・Aランクに該当する。また、活動履歴から、複数の隣接区間が連動する可能性がある。

	M6.8以上の地震が30年以内に発生する確率 ※	活断層	区域内の最大の地震の規模(マグニチュード)
全域	9-15%	中央構造線断層帯 長尾断層帯 上法軍寺断層 上浦一西月ノ宮断層 網附森断層	M8.0程度もしくはそれ以上 (中央構造線断層帯)

※ これらの確率は、区域内の最大規模の地震が発生する確率を表すものではない